

2004年3月26日
株式会社日立製作所
新神戸電機株式会社

日立と新神戸電機がハイブリッド電気自動車用リチウムイオン二次電池の 合併会社設立の検討を開始

株式会社日立製作所(執行役社長：庄山 悦彦/コード番号：6501/以下、日立)と新神戸電機株式会社(執行役社長：臼井 正信/コード番号：6934/以下、新神戸電機)は、このたび、ハイブリッド電気自動車(以下、HEV)用リチウムイオン二次電池のマーケティングおよび開発・製造を目的とした合併会社(以下、新会社)を、2004年度中に設立する検討を開始しました。

近年、地球環境保護や自動車の燃費向上を目的として、エンジンとモーターを動力源として併用する HEVや、水素と酸素の化学反応によって得られる電気エネルギーを動力源とする燃料電池自動車(以下、FCEV)の開発、製品化が世界規模で進められています。現在、HEVの電源として主に採用されているニッケル水素二次電池に比べて、エネルギー密度や出力密度の高いリチウムイオン二次電池は、小型・軽量化が可能であることから、HEVおよびFCEVの車載用、さらには産業用として大きな期待が寄せられています。

日立と新神戸電機は、これまでも、リチウムイオン二次電池の共同開発に取り組み、2000年には世界に先駆けてHEV用として製品化したほか、2003年には世界で初めて電動スクーター用製品を量産するなど、多くの実績を有しています。さらに、日立は、既にHEV用モーター、インバーター、コントローラー等のシステムキーデバイスの製品化も行っていることから、リチウムイオン二次電池も含めた、システムとしての製品提供が可能です。

今後、日立と新神戸電機は、新会社を設立することにより、本格的な需要拡大に向けて、リチウムイオン二次電池事業において両社が持つ強みを、最大限に発揮することが可能となります。また、これまで以上に、マーケティングから開発・製造までを、効率的かつ迅速に行うことが可能となり、さらに開発リソースの集中による投資の高効率化、開発スピードの加速を実現し、コスト競争力の強化および生産効率の向上など、事業の基盤体制の構築を目指します。

なお、今秋には、新会社にパイロットラインを敷設し、先行量産品の供給力を向上する予定です。

新会社の概要については、今後、両社にて検討していきます。

以上

このニュースリリースに掲載されている情報は、発表日現在の情報です。
発表日以降に変更される場合もありますので、あらかじめご了承ください。
